

第二表 牧草の種類と発芽の温度（撰氏）

種 類	発 芽 温 度			備 考
	最高	最低	最適	
麦 類	三〇—三七	〇—四八	三〇—三三	ソルゴー、スーダングラス、パールミレットも同ルも同
デントコーン	四〇—五〇	四八—五五	三七—四〇	
赤クローバー	三七—四〇	〇—四八	三三—三七	イも同
ひまわり	三七—四〇	四八—五五	三三—三七	
なたね	三七—四〇	〇—四八	三三—三七	

1、ペレニアアラ イグラス、赤クロバ、白クロバ、アルサイククロバ、スイートクローバ等、ついでイタリアンライグラス、チモシー、メドウフェスク等でしょう。オーチャードグラス、ブROOMグラス等はこれにつくとされています。

しかしながら種子の中には水分を与えられても容易に吸水しないものもあります。これを硬実といいますが一般に苧科牧草中に多く含まれています。今まで調査された結果を表示すると第一表の通りです。

第一表 牧草種子の硬実歩合

種子の種別	硬 実 歩 合		
	最多%	最小%	平均%
赤クローバー	四〇	〇	九六
アルサイククロバ	四〇	〇	二〇
白クローバ	三六	〇	二七
スイートクローバ	三七	一五	四二
ルソーサン	三三	〇	三六
コンモンベッチ	二八	〇	〇
さき	二六	〇	三三

註 各種の試料につき硬実数を数え、平均数を割出したもの。

硬実植物が子孫を永遠に保存するために意義のあるものですが、われわれの利用上からは無益のことであり、種皮を傷つける……例えば砂を混じて軽く搗くというような方法で硬実歩合を少くして利用するといわけです。

三 種子の発芽と温度

良い種子も発芽には適當の水分の外温度が必要である。実験の結果を表示すると第二表の通りです。最高温度とはこれ以上では発芽し得ない温度であり、最低温度はこれ以下では発芽し得ない温度です。これは直ちに播種期に関する問題で種子の発芽を良好にするための参考となると思います。

種子の必要とする温度は一定したものとは限らず、変温を必要とするものもあります。特にいね科牧草は種子の発芽に際して変温を必要とするものが多く、ケンタッキーブルーグラスでは摂氏二〇—三〇度の恒温においては発芽せず、時々日光に照らし種子を温める（発芽に日光の必要なることは後述）と発芽することが発見されています。

変温により発芽を幾分よくするものは、レッドトップ、発芽が極めて良くなるものにはオーチャード、ケンタッキーブルーグラス等があげられます。チモシー、ブROOMグラス、ライグラス、メドウフェスク等は変温に関係はないようです。

換言すれば変温に関係なきものは真夏の昼夜気温の大差なきときに播種してもよいが、変温に関係深きものは春または秋の昼夜気温の変化大なるときに播く方がよいということになりましょう。



プラム（西洋李）の栽培について

白幡喜一

はじめに 果樹栽培を行うにはその地方の気候に適當の種類を選定する事は誠に大切な事である。その土地の気候に適しない果樹を栽培するといろいろな障害が起り、生産費を多く要し、しかも果実の品質が良くないのが普通で、発展性が無いことはいうまでもない。

プラムの長所

今後の果樹栽培において生産費の低減は重要課題である。すなわち良い品を安価に売る事に考えをもたなければ大きな発展は望めないで、その面から適地に適作を選定する事が大切である。

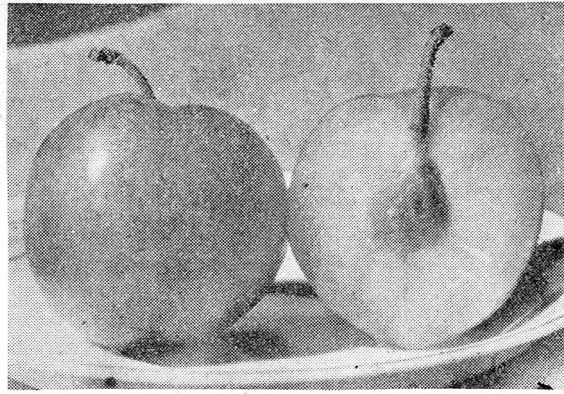
例えば気節風の多く強い平原地にりんごを栽培すると、樹は風のために風障生態を表わし、丁度海岸の松に見られるように一方のみ枝が伸び収量が半減する。また果実の成熟期に降雨の多い地方で桜桃を栽培すると実割れが多く、商品価値の無い果実となり、収益が非常に少い。このように不適作物を栽培することは労多くして効少く厳に留意しなければならぬことである。

一般に果樹類は夏季に乾燥する、すなわち夏乾地帯に適するものが多い。りんご、桜桃、葡萄等その類で、夏湿地帯に適するものは少なく栽培可能なものとして日本梨、柿等はある。

プラムと称して最近各地の市場に見られ、相当高価に販売せられ、各方面より注目されている西洋李は夏乾地帯でもまた夏湿地帯でも適するもので、すなわち余り気候を選ばない果樹である。加えて李は耐寒性頗る強く、寒気の烈しい北滿で栽培せられ、しかも品質の良い果実の生産されておる大果樹はプラムであるのを見ていかに耐寒性が強いかを伺う事ができる。また李等の核果類の果樹は概して風に対して強く風障生態を表わさない。試みに風の強い平原地帯でも、海岸地帯にも李はよく見られるところである。これは以前に各種の果樹類を試作したものが他の種類は多く失敗、絶滅し李のみが残っているものであつて、この実状より見ても李は風に対して如何に強いかが伺い知られる。

なお李は東北地方の山形方面では七月下旬より八月に、北海道においては八月中旬より九月上旬にかけて收穫される。すなわち桜桃について割合早期に收穫せられ、夏枯時に収入を得られる。兎角秋季に思わざ

る台風が多くなつている最近の気象状態より、台風シーズン前に収穫されるだけでも安全感をもたれる。また現在プラムの栽培は極めて少なく、貯蔵力が足りないののでそれぞれの地方においてその需要を満たすよう生産供給すべき点は葡萄と軌を同じくし、相当面積の栽培を望みたく、また発展性のある果樹と思われる。



プラムの品種

欧米においては相当数の品種が発表され、栽培されているが、わが国においてはプラムに関しての試験研究を行つていゝるもの極めて少なく、一般に栽培される主要な品種は第一表のようなものである。
和季として有名な品種に寺田季、米桃、兜李等あり、外に最近福島県の大石氏の育種された大石早生李があり、早生種が好評

第一表

品 種 名	熟 期	色 沢	果実の果肉 大きさの色
ビューター	早 生 帯赤色	中果	黄色
フォモサ	中 生 白黄色	大果	黄色
サンタローザ	中晩生 紫紅色	大果	黄色
ソルダム	中晩生 紫紅色	大果	紅色

であるが、種苗登録品種で現在苗木も高価で未だ大量栽培を見てない。

果樹は凡て混植する方が受精良好で着果がよいのであるが、李とくにフォモサは必ず混植を必要とする。

栽 培 法

栽植距離：李は二間半乃至三間の正方形植を行う。

仕立法：一般に杯状形仕立乃至立木仕立が行われる。

結果年齢：栽植三、四年より結果期に入り一四、五年にて盛

果期に入る。

病虫害の防除

：その他栽培管理については一般果樹と同様であるが李等の核果類の果樹は開葉後ボルドー等の銅剤、並びに砒素剤に対して

第二表

順位	撒布月日	撒布薬剤	調 合	量
1	四月七日	濃厚石灰硫黄合剤(ボーマン五度)		
2	四月二二日	硫酸鉛加用石灰硫黄合剤	硫酸合剤 生石灰 硫酸鉛 リノール	一〇〇倍液 二〇〇倍液 一斗当 〇・七五匁
3	五月二三日	D・D・T加用石灰硫黄合剤	硫酸合剤 生石灰 D・D・T リノール	一〇〇倍液 三〇〇倍液 一斗当 〇・五匁
4	六月八日	ロテゾール加用ソイド一号液	ソイド一号 ロデゾール	一斗当 一五匁 八〇〇倍
5	七月一三日	ソイド一号液	ビューター種は無袋 ソイド一号 カゼイン石灰	一斗当 一五匁 一〇〇匁
6	七月下旬 八月中旬	ソイド一号液	同 右	

葉害を起し落葉をきたすので、開葉後はこれらの薬剤は使用してはならない。今山形県における一業者の昭和二十八年に実施した薬剤撒布の一例を参考に紹介すれば第二表のようである。

以上のように病害に対しては硫黄剤を主体とし、害虫に対しては接触剤、並びにB・H・C及びD・D・T等多く使用される。

現在芯喰虫の防除には薬剤撒布による防除はもちろんであるが、早生のビューターを除き他品種は凡て袋掛を行つていゝる。一般に李は虫が入つて困ると称されるが、これは放任栽培にて、薬剤撒布も袋掛も行つてない人の言で、りんご等も放任栽培では

決して立派な果実を得られぬばかりでなく、枝葉も病害虫の巢となり、生育も望まれぬのが普通である。李は無撒布でも樹がよく生育しているだけ病害虫が少くないと思われる。

荷造販売

李は多量な果実であるため傷みやすい。それで荷造、輸送にはとくに注意が必要で、容器は一貫入りで一段並べの木箱を使用し、普通填充物は木毛を使用し、果実を桜紙にて包み、商品価値を高めていゝる。この小箱は幾つか重ねて荷造輸送する。

最近の相場を山形県の業者について見るに東京市場出荷値は次のごとく相当高価で販売されている。

フォモサ 一貫詰(三〇玉入) 六〇〇円〜七五〇円

サンタローザ 一貫詰(四〇玉入) 七〇〇円〜七五〇円

右は一等級の果実の相場で、北海道には二等級、三等級の果実が販売されているようである。

一等品は四〇匁以上に達するものもあり、香氣高く、風味頗る良好である。前述の通り収穫期には他の果実少なく、従つて需要も多い。

以上のようにプラムは割合栽培容易にして、北海道においては有望な果樹であり、将来性のある適作物として推奨したい。

(雪印種苗・藤之沢育種場長)